

## Greeting Cards of Ashibeya and Other Historical Material

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 真一, 西本, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/762">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/762</a>

# あしべ屋の挨拶状とその他の史料

## Greeting Cards of Ashibeya and Other Historical Material

西 本 真 一\*  
Shinichi Nishimoto

西 本 直 子†  
Naoko Nishimoto

### 要旨

明治時代の末期に栄えた和歌の浦の高級会席旅館あしべ屋は、得意客たちに暑中見舞と年賀状を毎年送っていたらしく、このうちの何枚かが残されている。消印が押されたこれらの挨拶状にうかがわれるあしべ屋の全景写真については、常に最新のものが掲載されたと考えられないとは言え、年月日を備えた数少ない画像史料として扱うべきものも含まれており、貴重である。葉書の文面からも重要な情報がもたらされることが期待され、本稿ではそれらを紹介したい。

### 1、前言

溝端佳則氏によって収集された和歌山に関する膨大なコレクション<sup>1</sup>については、すでに故・米田頼司氏が詳細な紹介をおこなっている。その重要性についてはここで繰り返さない。この貴重なコレクションの中には、あしべ屋の主人であった藪清一郎が得意客たちに送った暑中見舞1点と年賀状6点が含まれている。同種の年賀状を所有しているのが尼崎市立地域研究史料館であることが近年判明し、川端正和氏文書の中には3点の葉書が蔵されている事実が知られた<sup>2</sup>。さらには著者たちが最近、古書店より入手することができた年賀状1点を研究対象に加えることができる。

これらを順次、紹介しつつ、各々の特徴に関して細かく触れてみたい。あしべ屋の諸施設における増改築については、年代が不明である場合が多いことを再三述べてきた<sup>3</sup>。これらに

<sup>1</sup> 米田頼司「名所絵葉書にみる景観と景観変容：溝端コレクション（和歌の浦）とその内容分析」、紀州経済史文化史研究所紀要 33（2012）、pp. 1-34。コレクションの閲覧と本稿への掲載を御許可いただいた溝端佳則氏に厚く御礼申し上げます。

<sup>2</sup> 資料の閲覧と写真の掲載に関し、御許可いただいた尼崎市立地域研究史料館の辻川敦館長に厚く御礼を申し上げます。

<sup>3</sup> 拙稿「和歌の浦『あしべ屋別荘』と夏目漱石」、武蔵野大学環境研究所紀要 2（2013）、pp. 77-93；同「和歌の浦『あしべ屋』の増改築の過程」、武蔵野大学環境研究所紀要 3（2014）、pp. 99-115；同「和歌の浦『あしべ屋』を巡るその他の史料」、武蔵野大学環境研究所紀要 5（2016）、pp. 105-112；同「和歌の浦『あしべ屋』と『妹背別荘』を巡るその他の史料」、武蔵野大学環境研究所紀要 6（2017）、pp. 33-46；同「近代の妹背山：あしべ屋妹背別荘について（明治・大正期を中心に）」、名勝和歌の浦玉津島保存会編「文化財担当者と学ぶ名勝和歌の浦」、名勝和歌の浦玉津島保存会、pp. 89-99。

\* 環境研究所客員研究員 † 工学部非常勤講師（建築デザイン学科）

関する情報が、定期的にあしべ屋から送られて消印を有する年賀状などの文面や写真によって解明される可能性が指摘されよう。今後、新たな史料が発見されることも考えられるが、現時点での考察を進めることとしたい。

あしべ屋は大量の絵葉書を発行することにも寄与したと見られるが、昔の写真が使われたり、また部分的に修正した写真が用いられたりしており、消印がない時、絵葉書の形式に基いて印刷された写真の年代判定をおこなうことには常に危険が伴うことに注意する必要がある。挨拶状の場合ではその点が大きく異なるのかどうか。問題となるところである。つまり絵葉書の場合は印刷される際に古い写真が用いられたり、あるいは長く保存された後に使われたりすることを考慮しなければならないが、旅館が挨拶状を出す場合には最新の写真を用いたと仮想して良いのだろうか。その点を確認める必要があろう。

## 2、各葉書の特徴

ここで扱おうとしているのは合計 11 点の史料であり、以下に年代順に列举する。

- |   |                 |      |                                       |
|---|-----------------|------|---------------------------------------|
| A | 明治 35 年 8 月 3 日 | 暑中見舞 | 溝端コレクション蔵 (図 1)                       |
| B | 明治 38 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 2)                       |
| C | 明治 39 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 西本家蔵 (図 3)                            |
| D | 明治 40 年 1 月 6 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 4)                       |
| E | 明治 41 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 5)                       |
| F | 明治 42 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 6)                       |
| G | 明治 43 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 7)                       |
| H | 明治 43 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 尼崎市立地域研究史料館蔵、<br>川端正和氏文書(4)292 (図 8)  |
| I | 明治 45 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 溝端コレクション蔵 (図 9)                       |
| J | 明治 45 年 1 月 1 日 | 年賀状  | 尼崎市立地域研究史料館蔵、<br>川端正和氏文書(4)406 (図 10) |
| K | 大正 2 年 1 月 1 日  | 年賀状  | 尼崎市立地域研究史料館蔵、<br>川端正和氏文書(4)685 (図 11) |

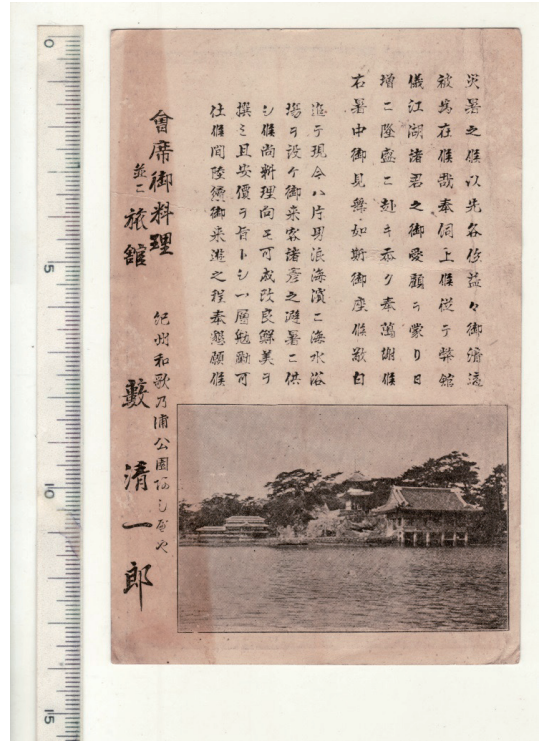
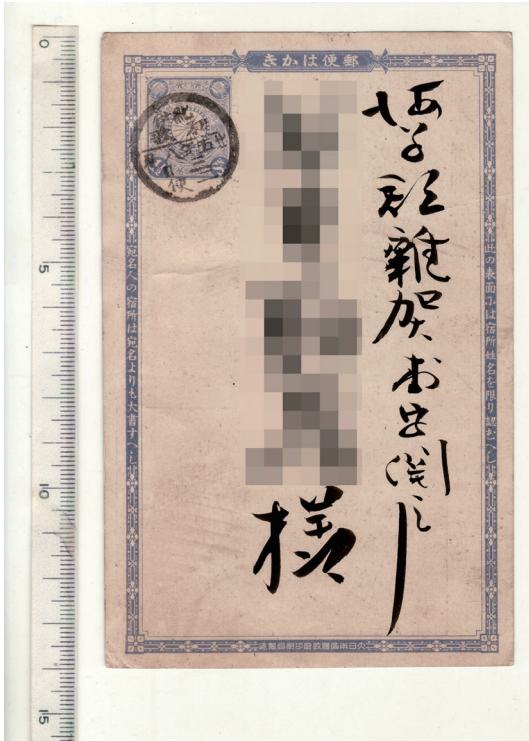


図1：A、宛名面（左）とその裏面（右）

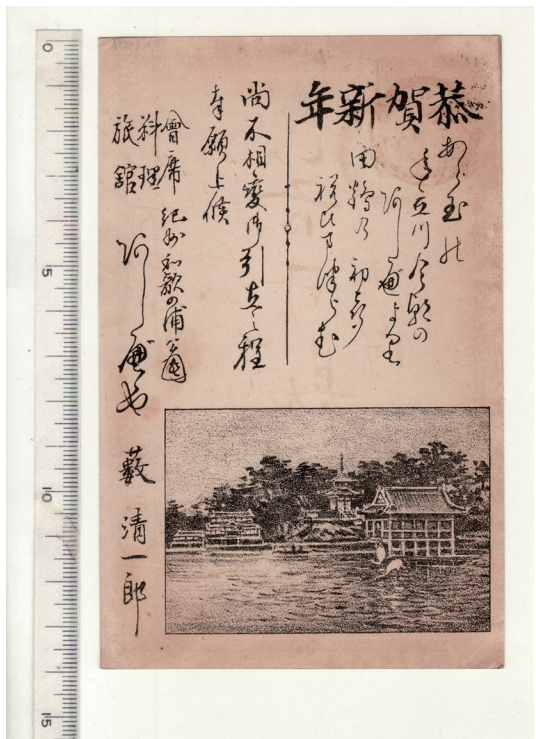
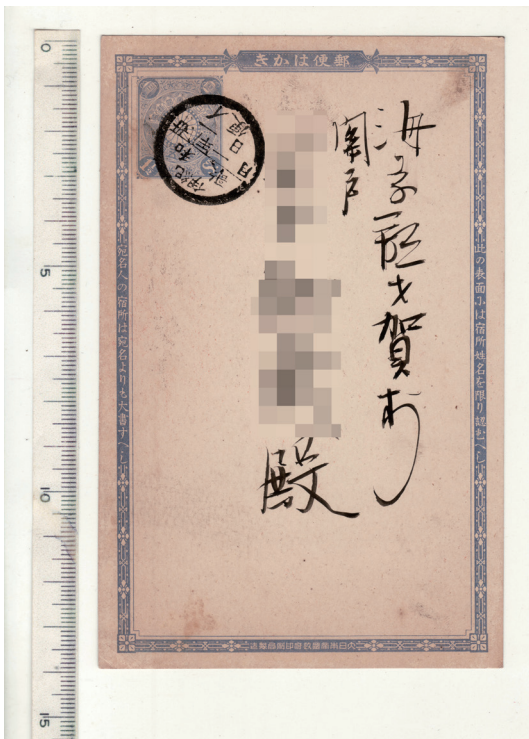


図2：B、宛名面（左）とその裏面（右）



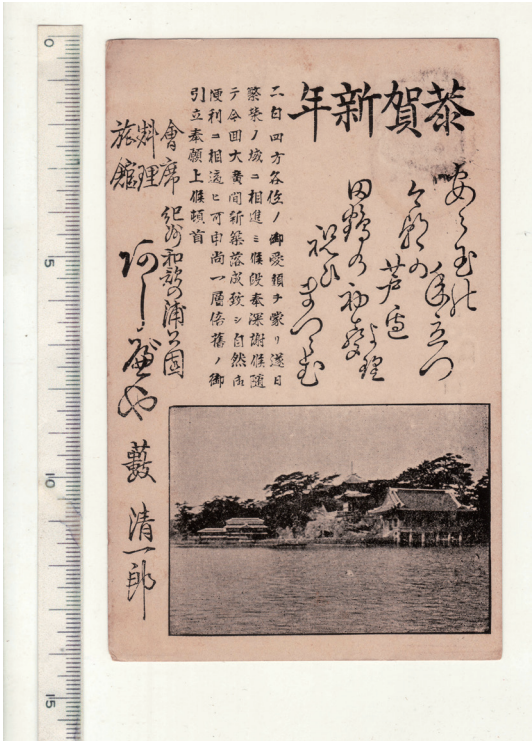
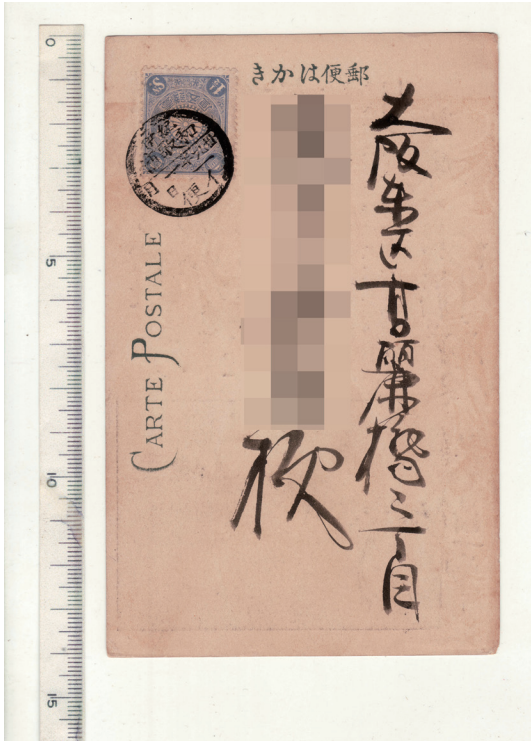


図3 : C、宛名面 (左) とその裏面 (右)

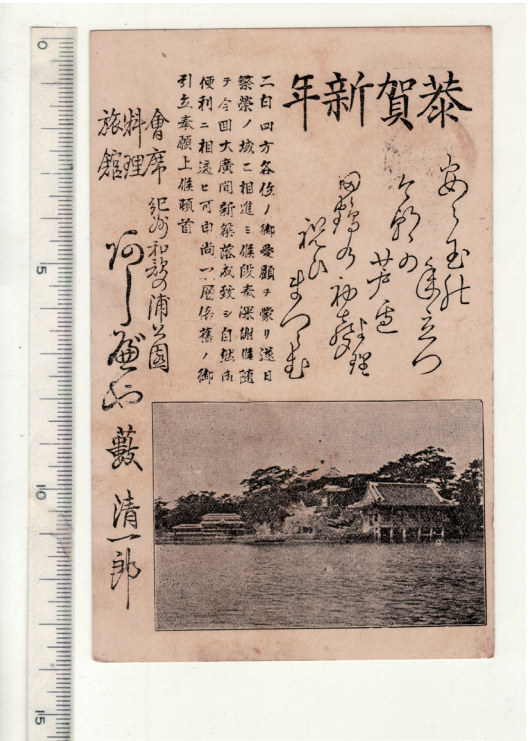
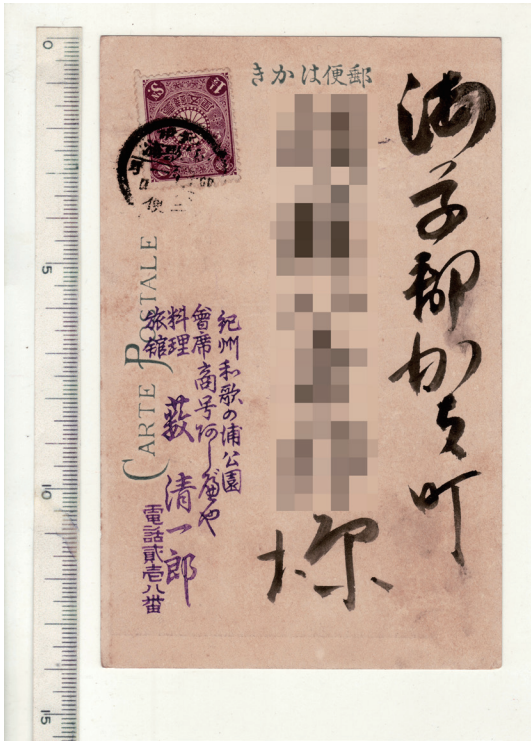


図4 : D、宛名面 (左) とその裏面 (右)





図5 : E、宛名面(左)とその裏面(右)

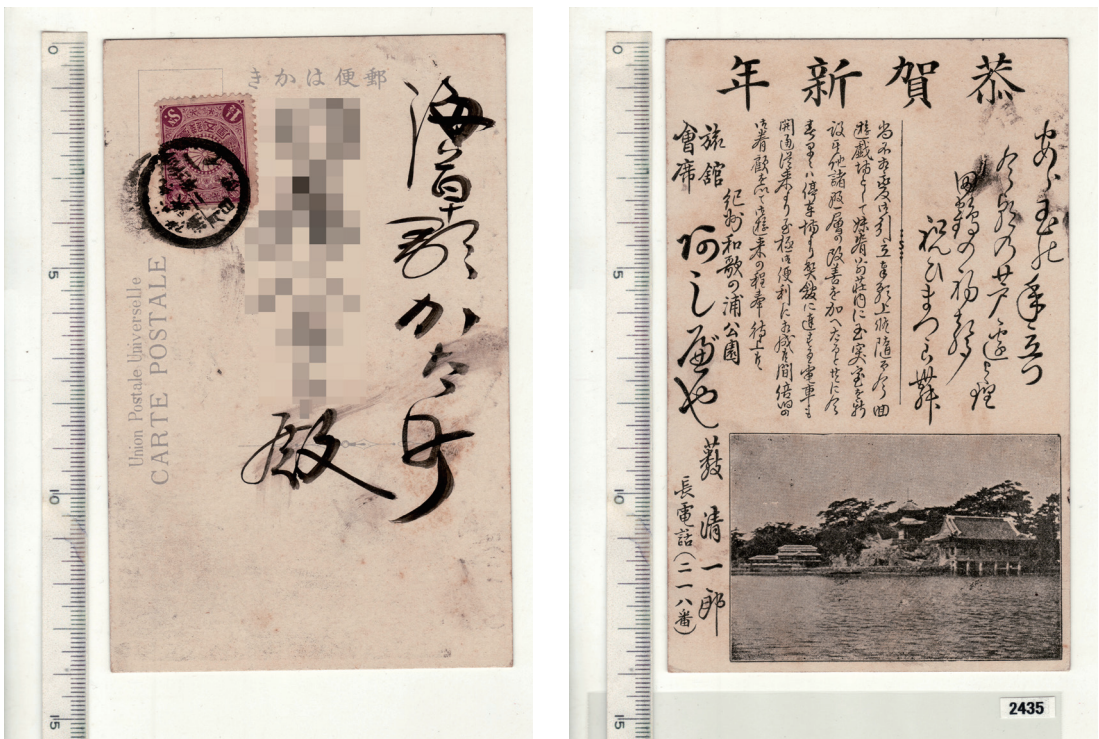


図6 : F、宛名面(左)とその裏面(右)



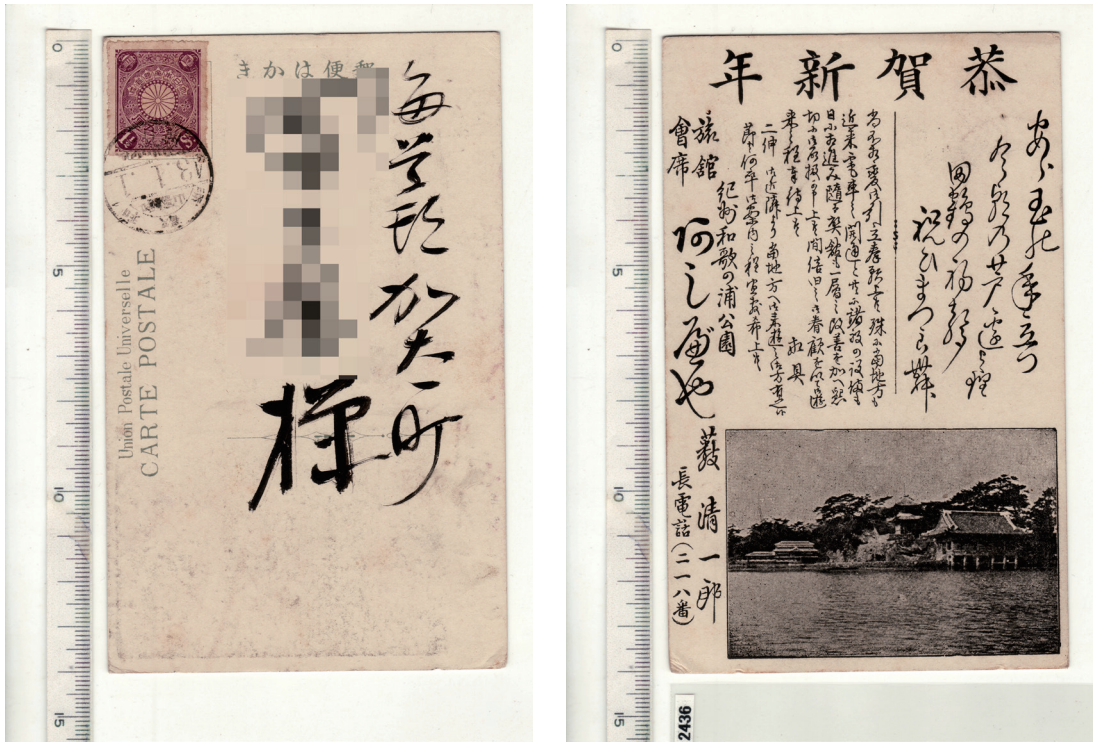


図7 : G、宛名面 (左) とその裏面 (右)

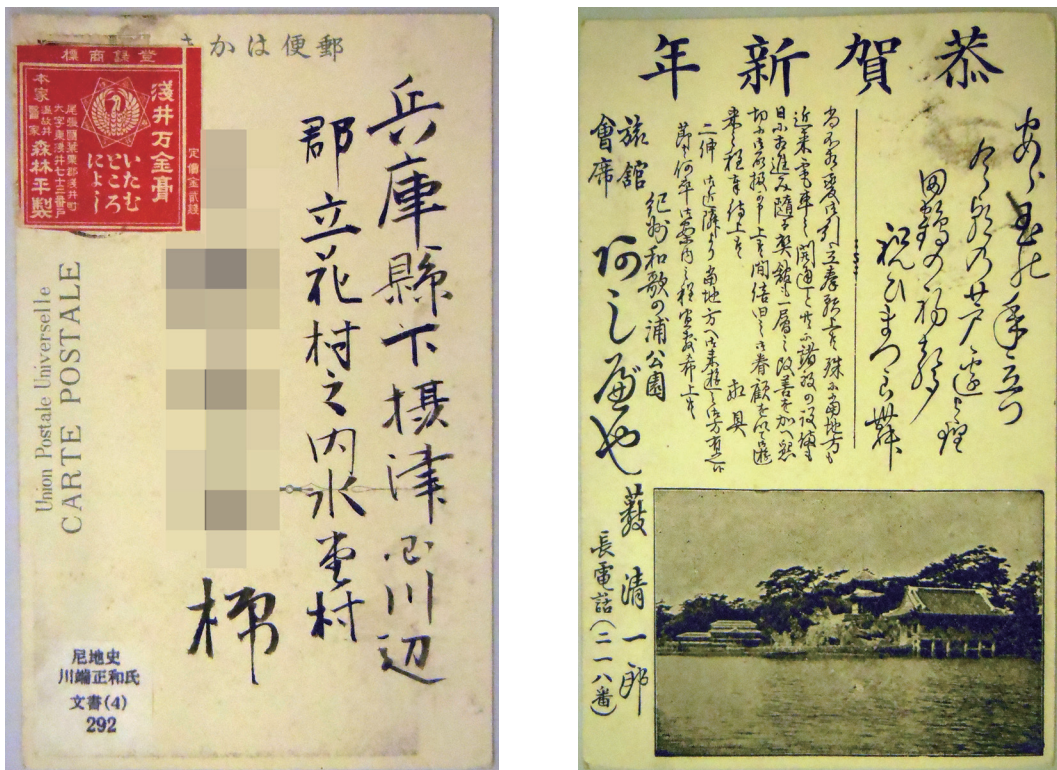


図8 : H、宛名面 (左) とその裏面 (右)





図9：I、宛名面（左）とその裏面（右）

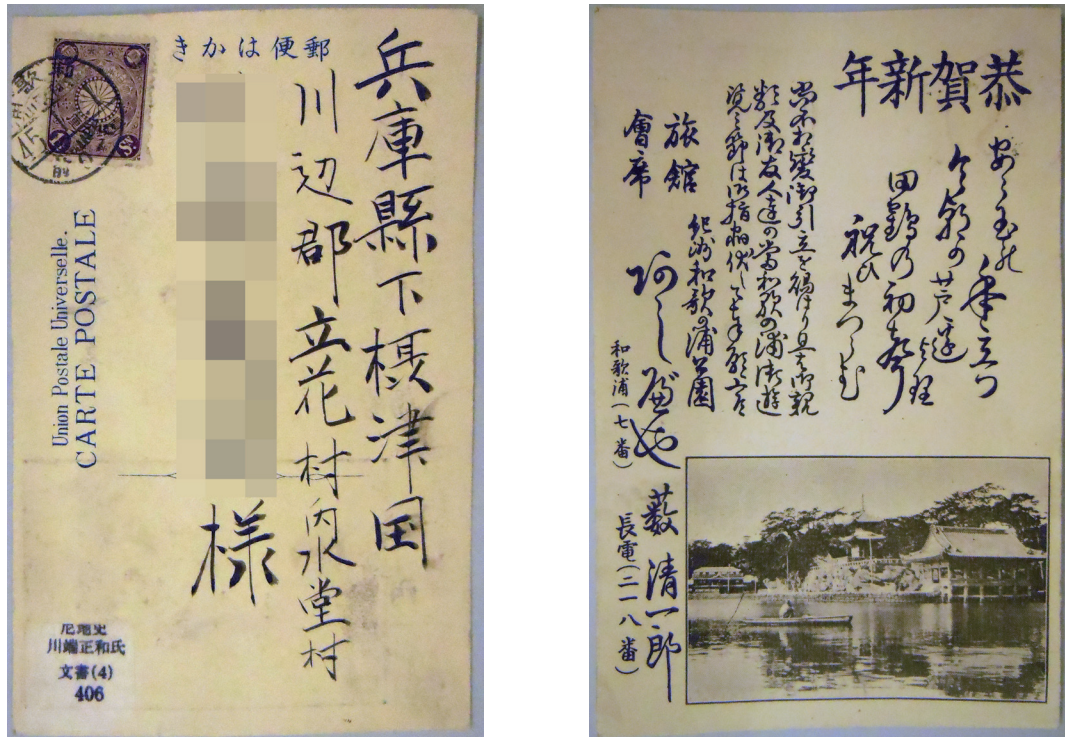


図10：J、宛名面（左）とその裏面（右）



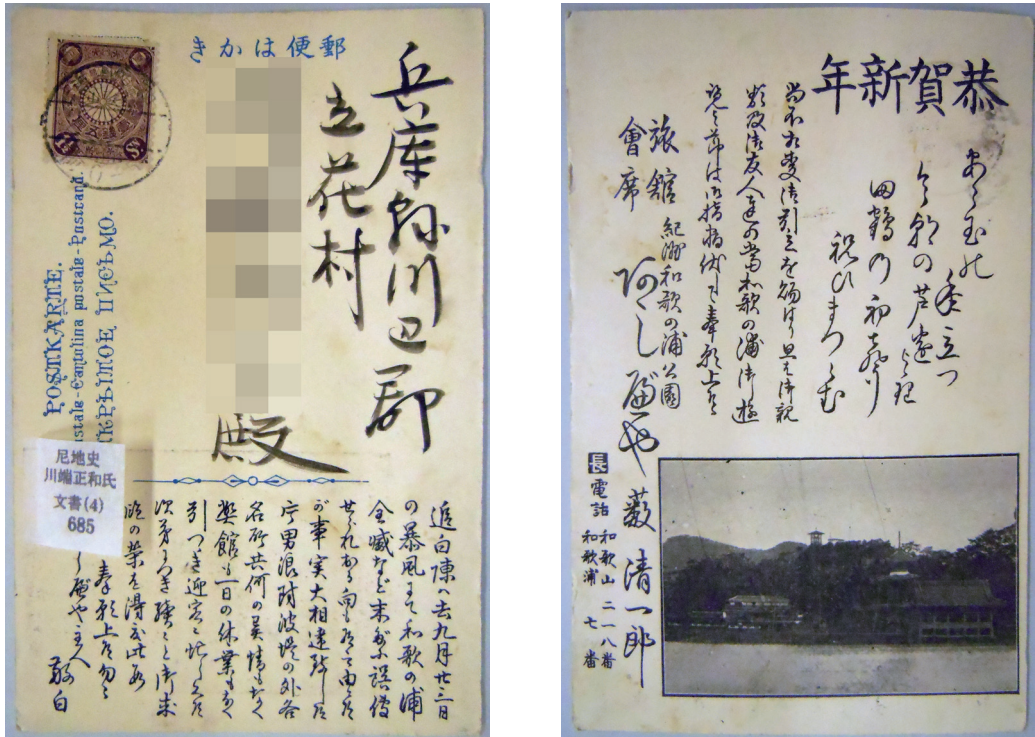


図 1 1 : K、宛名面（左）とその裏面（右）

最も日付の早いものは、暑中見舞である（図 1）。消印の「廿」は部分的に欠損していて読みにくく、あるいは「廿」のようにも見える。だが、あしべ屋の本店の正面を示す写真では切妻の破風が観察され、すでに見てきたように明治 32 年には外から 2 階へと登る階段は撤去されたと考えることができる<sup>4</sup>。従って、消印は明治 25 年ではなく、明治 35 年であると判断がなされる。

図 2 の消印は明瞭で、明治 38 年 1 月 1 日を示す。宛名は A と同じであるが、筆跡が異なる。写真ではなく、和歌の浦を描いた絵画を掲載したようである。観海閣の手前には 2 羽の鶴が描かれている。

図 3 の消印もはっきりと押されており、明治 39 年 1 月 1 日を示すことに疑いはない。干潟から撮影されたあしべ屋本店と妹背山の写真が用いられているが、図 1 で見られるものと同じもののようである。写真の上の文面には「今回大広間新築落成致シ」というくだりが見られ、重要である。この大広間とは、どこを指すのであろうか。妹背別荘の奥座敷も後に増築されたものであることは述べた<sup>5</sup>が、その時期は大正 2 年から同 6 年の間であると推測される。このため、北の別荘、あるいは玉津島別荘と呼ばれた本店近くの 2 階建ての上階に大広

<sup>4</sup> 拙稿「和歌の浦『あしべ屋』を巡るその他の史料」、武蔵野大学環境研究所紀要 5 (2016)、p. 108。

<sup>5</sup> 前掲論文、pp. 108-110。

間があった可能性が高い。

図4の消印は判読し難いものの、わずかに「四十年」という字の痕跡を読み取ることができる。興味を惹くのは、使用されている写真が明治39年正月のものとまったく同じであるように見える一方、文面についてはわずかに違いが見られ、「今回大広間新築落成致シ」がここでもうかがわれるが、特に片仮名の「ノ」、「テ」、「ニ」では違いが観察される。明治40年の正月には、ほとんど前年と同じ体裁の年賀状が出されたと考えられるため、遡って明治38年の正月にも同じ内容が記されたことも、あるいはあったかもしれない。つまり大広間を含む北の別荘（玉津島別荘）の正確な建立年代は、明治39年頃であろうと思われるものの、若干遡ることも考えに含めておく必要がある。

図5の宛名面には三分の一のところに横線が入り、消印も明治41年1月1日である。宛名面の三分の一の場所に横線が入るのは明治40年からという点は良く知られているが、ここでもそれが確認される。使用されている写真も相変わらず同じものであると判断がなされる。

図6の宛名は図4で見られるものと同じ名前であろうが、筆跡が異なる。消印は明治42年1月1日であろう。写真はそれまで用いられていたものと同一であるらしく思われる。しかし文面には「今回遊戯場として妹背別荘内に玉突室を新設」、また「停車場より弊館に達する電車も開通従来より至極御便利に」という内容が見られ、重要である。ビリヤード場は、明治41年に立てられたのでであろう。あしべ屋は「最新写真銅版和歌の浦名所図」（図12）を明治42年に出しており、編纂者は明治26年の「紀伊和歌浦図」と同じ塩崎毛兵衛、発行者も同様に塩崎保太郎である。「最新写真銅版和歌の浦名所図」には路面電車の路線図も掲載しており（図13）、あしべ屋のすぐそばまで電車の敷設が行われたことは、店主の藪清一郎を喜ばせたに違いない。

図7の消印は明瞭に明治43年1月1日を伝えている。宛名は加太町の旅館で、これは図5と同じである。写真は以前の年賀状と同一だが、文面には「近來電車も開通」という内容が読み取れる。

図8は図7とまったく同じ年賀状である。

図9は図4や図6と同じ宛名を有する。写真は入れ替えられており、おそらくは明治末期のあしべ屋の姿を撮影したものでであろう。消印は読みにくい、明治45年1月1日であると思われる。

図10は図9と同じ日付の消印を持つが、しかし写真が異なっている。注意深く観察すると、あしべ屋の後方の木々の上にエレベーター「明光台」もかすかに見える<sup>6</sup>。この年、2種類の年賀状が存在したことになるが、図9には明治43年に完成した「明光台」が写ってい

<sup>6</sup> 「明光台」については、溝端佳則「漱石が見た百年前の和歌山：写真・小説・日記・新聞記事より」、和歌山県立文書館だより31（平成23年7月）、pp. 2-7のうち、特にpp. 4-5を参照。

（<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/monjyo/kanko/tayori/tayori31.pdf>、閲覧日：平成29年10月31日）。

ないから、図9の写真はそれ以前に撮影されたものである。2種類の年賀状がなぜ存在するのか、その理由は不明である。史料がさらに増えてくるならば、あるいは解決されるかもしれない。

図11の写真では「明光台」がはっきりと写っている。消印は大正2年1月1日で、後にこの「明光台」は取り壊されることとなる。短い期間だけ立っていた鉄塔であるために、写真などの年代判定においては今後も重視される構造物である。



図12(左):「最新写真銅版和歌の浦名所図」(明治42年)

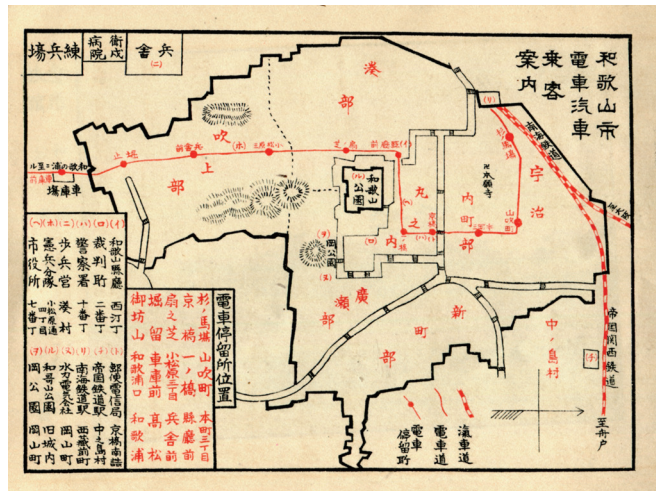


図13(右):「最新写真銅版和歌の浦名所図」、和歌山市電車汽車乘客案内

### 3、まとめ

以上、現在まで入手しうる限りの暑中見舞と年賀状を概観し、あしべ屋を巡ってこれまで判明している事柄との関連を探った。「大広間」に関する言及が見られる点が大きな収穫である。それはおそらく北の別荘(玉津島別荘)の上層に設けられていたはずであり、明治39年頃の増築と推定される。

大広間と思われる内観写真もいくらか残っているが、造作は現存する妹背別荘の奥座敷とは大きく異なるため、判別は容易である。こうした諸史料の収集を図り、今後もあしべ屋の増改築の過程を明らかにしていきたい。